

盛岡市では本州でも指折りの極寒の地であり、放射冷却現象が発生すると一晩で-10℃付近まで一気に冷え込みます。

先日、職場での何気ない会話の中で「今朝、凄く寒かったあ。まだ12月なのに外-8℃だよ。朝6時に起きたら、家の中3℃でびっくりした。」という会話がありました。

「うちは12℃、マンションだからまだ暖かった。ところでSさん、新しいお家何℃でした？」

「えっ〜と、日中エアコン22℃設定で過ごして、夜10時頃に暖房切って、朝6時で16℃ぐらいですかね」 「おお〜16℃!!いやいや驚くねえ」との声があがりました。

心の中で、何故か小さなガッツポーズがでます。

「確かSさん栗石の住宅メーカーが言った断熱仕様が本当に実現するのか調査するって、まだカーテンしないでゴミ袋の薄いやつ、目隠し程度に窓にぶら下げているだけでしょ？」とからかい交じりの声もあり、驚き半分、笑い半分の会話で盛り上がりました。

実は今年初めの入居開始から断熱性能を調査するため、我家にカーテンを設置しておりません。さすがに-8℃ともなると窓に多少なりとも結露が生じ冷たさを感じますが、それでも16℃は保持している状況は驚きです。家族からは「見た目も嫌だし、カーテンとかブラインドとか付ければもっと暖かいはずだからさっさと取り付けて」と呆れ顔で言われてはおりますが…。高気密・高断熱仕様の家の凄さを改めて感じる次第です。

一方サラリーマンにとって家を構えるということは一大事業でありまして、残念ながら予算の都合により「トリプル」ではなく「ペアガラス」仕様のガラス窓を使用しております。

しかし、ペアガラスであっても氷点下-8℃の外気温と家の中では天と地の差です。

また「採光良く明るい家」を望んだため、放熱する窓の数が多く普通なら熱損失が大きく温まりにくいのですが、盛岡の12月でもお日様が照っている時はエアコンをつけなくても十分に暖かい性能です。また夏は太陽高度が高くなるため家に日差しが入りづらく、朝の涼しい時間帯に空気の入替えを行えば、よほどの暑い日を除いてエアコンの必要が無い状態です。そのため光熱費が夏場はほとんどかかりません。

本宅は、およそ8.4kwの太陽光発電システムを搭載し、エアコン2台(床下1台、階段に1台(メインのエアコン))を有しております。太陽光発電の売電は余剰電力を売電(1kw/26円)しているのですが、深夜電力を上手く利用し、ガス(煮炊き)、水道、下水道、電気のライフラインの収支が、1月から10月まで併せて現在のところ、月平均2,000円以下と住宅ローンの返済に一役かっています。「高気密・高断熱」は家の暖かさのみならず、サラリーマンのお財布事情も温める住宅ローン返済の頼もしいパートナーとなりそうです。

(2020年1月引渡し)

